



江戸川区の 学童集団疎開受入校

昭和19年8、9月に375人が疎開すると、学年ごとに朝陽第一～第五小学校に分かれて、提供をうけた一部の教室を使って学習しました。「鶴岡のあゆみ」

やがて、鶴岡にも空襲の危険がせまりました。**鶴岡の児童の集団疎開**
朝陽第一から第五小学校の児童も集団疎開をすることになりました。(昭和20年7月から)
江戸川区の児童の再疎開

- 市内に疎開した江戸川区の児童の内431人が昭和20年7月に郊外へ再疎開をしました。
- 葛西小 → 渡前村(現 鶴岡市渡前)
 - 鹿本小 → 押切村(現 三川町押切)
 - 鎌田小 → 再疎開をしませんでした
 - 第三葛西小 → 藤島町(現 鶴岡市藤島)
 - 瑞江小 → 本郷村(現 鶴岡市本郷)
 - 篠崎小 → 常万村(現 庄内町常万)

マップの見方

- 江 江戸川区の疎開先
- 江 江戸川区の再疎開先
- 鶴 鶴岡の疎開先
- 関係する場所



○朝陽第四小学校(当時の場所)
「昭和19年8月 6年男38人、女29人、計67人受け入れ」
瑞江、葛西、第二葛西、第三葛西、鎌田の子が学習したという記録があります。付添教師の指導で工作室で学習しました。「朝四小沿革誌」「百年のあゆみ」

○朝陽第一小学校(当時の場所)
「昭和19年8月23日に受け入れ」
「昭和20年4月 3学級150人受け入れ」
昭和19年8月11日「疎開学童激動交歓式」が地元児童も参加して、朝陽一小雨天体操場(体育館)で開かれました。
昭和19年度は瑞江・鎌田・葛西・第二葛西・第三葛西の34年生が通ったようです。「朝一小沿革誌」「朝一小当直日誌」「わたしの朝一小」「山形新聞」

江戸川区の疎開児童の宿舎

昭和19年8・9月に3～6年生375名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。

○鶴岡地区 佐川屋、吉川屋、飯白旅館、村上旅館、鶴岡ホテル、伊勢屋、新穂館、庄内ホテル、奈良屋、渡会旅館、富士屋、恵比寿屋、伊勢屋支店の13旅館「江戸川区の学童疎開」

年度がかわり昭和20年4月には、疎開児童は900人になりました(わずかだが1、2年生も加わり)、一部の児童が内陸の南陽市や川西町に移りました。

○昭和20年4月にはさらに次の旅館や寺院にも宿泊した記録があります。

だんご屋、科皮屋、安清館、松ノ湯の4旅館
禪源寺、長泉寺、般若寺、大昌寺、正覚寺、光明寺、極楽寺、東昌寺の8寺院「鶴岡のあゆみ」「鶴岡市史」「江戸川区の学童疎開」

○朝陽第三小学校
「昭和19年8月 江戸川区鹿本小より3年21名5年39名、6年42名を受け入れ」
理科室、工作室、図書室で学習しました。「朝三小沿革誌」
学童疎開の縁で結ばれた姉妹校、江戸川区立鹿本小と今も交流を続けています。校地に疎開学童の碑があります。「朝三小のあゆみ」

○鶴岡駅
昭和19年8月10日江戸川区の疎開児童第一陣が到着し、小林鶴岡市長、市内小学生500名で出むかえました。「山形新聞」



○鶴岡公園
昭和19年の冬は大雪で、疎開児童は鶴岡公園や赤川の土手で、はじめてスキーを体験しました。「鶴岡の思い出」

○鶴岡市役所
学童疎開の碑 平成6年学童疎開50周年の年に記念碑が建てられました。



○朝陽第五小学校(当時の場所)
「受け入れ人数は不明」
鹿本小の4年生、約20人が通ったという記録があります。「鶴岡の思い出」



○赤川河川敷
・勤労奉仕「じやり運ばん作業」
昭和19年8月26日から9月13日まで朝陽各小学校児童と疎開児童が一しょに、赤川三川橋の近くの河川敷のじやりを線路まで運ぶ作業をしました。「わが郷土鶴岡」「山形新聞」
・勤労奉仕「砂はこび」
赤川の河川敷から湯田川温泉まで疎開児童が砂はこびをしました。砂は疎開児童に食べさせる「豆もやし作り」に使われました。「鶴岡の思い出 鹿本国民学校学童疎開6年生」

○疎開児童の勤労奉仕(きんろうほうし)
戦争中、鶴岡の小学生は食料の増産のために畑作りやいご捕りをしたり、農家を手伝ったり、さまざまな勤労奉仕をしました。
江戸川区の疎開児童も同じでした。記録では、湯野浜温泉の疎開児童は、午前中は勉強午後は燃料や食料にするため松かさ拾いやいご採りなどを探りなどをしました。また、湯田川では5年生以上がマキ拾いやマキ運び、山菜採り、たにし拾いなどをしました。「鶴岡のあゆみ」「江戸川区の学童疎開」

○朝陽第二小学校(当時の場所)
「昭和19年8月 5年生88人を受け入れ、二学級に編成、瑞江、鎌田、葛西、第二葛西、第三葛西の5年生が工作室、理科室で勉強しました。学童疎開の縁で第三葛西小と瑞江小との交流が戦後早くから始まりました。「天神の森」「創立百周年記念誌」「江戸川区の学童疎開」

学童疎開を学ぶマップ ～鶴岡地区～ 令和8年度版

国土地理院

江戸川区の疎開児童の宿舎 湯野浜温泉

昭和19年8月から3~6年生1715名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。

○湯野浜温泉 大屋、湯野浜ホテル、免びすや、大黒屋、扇屋、岩見屋、岩崎屋、都屋、富屋、岩本屋、亀屋、宮島屋、富士屋、小柳館、厚生館、竜ノ湯、一久、伊砂屋、福住、鶴屋、竹屋、双葉の22旅館
「学童疎開 謝恩の記念碑の銘文」「江戸川区の学童疎開」

昭和19年12月末にはさらに児童数が増えています。

昭和20年、6年生が卒業のために帰京し、1.2年生をふくむ新たな疎開児童が来ました。

江戸川区の疎開児童の宿舎 善宝寺

昭和19年8月から3~6年生88名が疎開し宿泊しました。(山形新聞には91名とあります)小松川第三小の6年女子38名と、小松川第四小の3~6年生50名でした。

○宿泊場所は10月までは龍華庵(りゅうげあん)で、11月からは本堂の二階という記録があります。「江戸川区の学童疎開」「ひらい五十年 平井小記念誌」「上越市市民の戦争体験談」「山形新聞」
昭和20年に、6年生が卒業のために帰京しました。昭和20年春に、茨城県の磯濱学園(学寮)から男女合わせて約40名が来て、女子は本堂の二階広間に、男子は龍華庵に入ったと記録があります。「江戸川区の学童疎開」

○湯野浜海水浴場
湯野浜温泉の疎開児童はもちろん、他の地区の児童も湯野浜で海水浴をしました。(鶴岡地区、大山地区、善宝寺) その体験を「海水浴を楽しみ、海から上がると温泉のお湯で砂を落とし温まったものでした」と書いた善宝寺の疎開児童の手記があります。「上越市市民の戦争体験談」「鶴岡の想い出」「学童集団疎開と交流の記録」

江戸川区の学童疎開受入校
昭和20年4月から10月まで大山小学校の教室を使って学習しました。
「学童集団疎開と交流の記録」



○旧大山町の学童疎開
昭和20年4、5月に135の民家や寺院が受入れ先となり234人の児童が疎開しました。「大山学校百年の歩み」「学童集団疎開と交流の記録」
戦後もお世話になった恩を忘れられないと交流が続ぎ、大山小に「学童疎開報恩碑」が建立されています。



江戸川区の疎開児童の宿舎 大山地区

昭和20年4月から2~6年生234名が疎開しました。一部は温海や長井から移ってきた児童でした。

○民家(135家庭)に210名 ○正法寺に24名
「江戸川区の学童疎開」「学童集団疎開と交流の記録」

学童疎開を学ぶマップ ~大山・加茂・豊浦・藤島地区~ 令和8年度版

○湯野浜温泉の学童疎開
昭和19年8月から1715名、12月の末には1748名が疎開しました。鶴岡ではもっとも多くの児童を迎え入れてお世話しました。「江戸川区の学童疎開」

○湯野浜温泉の宿舎で療養食病気の子どものために特別な献立が作られ、かながしらのみそ汁や、おさしみ、アスパラガスなどが出された記録があります。「江戸川区教育委員会」

○湯野浜・西郷の空襲
昭和20年8月10日、アメリカ軍機
の空襲を受け4人が亡くなりました。この時疎開児童の泊まる旅館の一つも被害を受け、西郷小の校舎も攻撃されました。「湯野浜の歴史」「鶴岡のあゆみ」

○押切・常万に再疎開
昭和20年7月に空襲に備え江戸川区の一部児童が、押切(100人)・常万(46人)に再疎開をしました。「鶴岡市史 中巻」
違う人数を上げる資料もあります。

○藤島・渡前に再疎開
昭和20年7月になると、鶴岡市街にも空襲の危険が迫り、江戸川区の一部児童が、藤島(48人)・渡前(100人)に再疎開をしました。「鶴岡市史 中巻」
「学校沿革誌」には、藤島20余名、渡前120名とあります。

○善宝寺の学童疎開
昭和19年に江戸川区の疎開児童88人を龍華庵や本堂に迎え入れました。「江戸川区の学童疎開」「上越市市民の戦争体験談」



○湯田川温泉の学童疎開
昭和19年8月から、824人を受け入れました。「江戸川区の学童疎開」
元疎開児童による感謝の気持ちをこめた記念碑が建てられています。記念碑には885人とあります。



江戸川区の学童疎開受入校
昭和19年8月から午後湯田川小の教室を借りたりして学習しました。「江戸川区の学校教育」



○金峰登山
昭和19年9月湯田川温泉の第二松江小の児童全員で金峰登山をしました。「第二松江国民学校学童集団疎開の記録」

江戸川区の疎開児童の宿舎 湯田川温泉

昭和19年8月から3~6年生824名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。

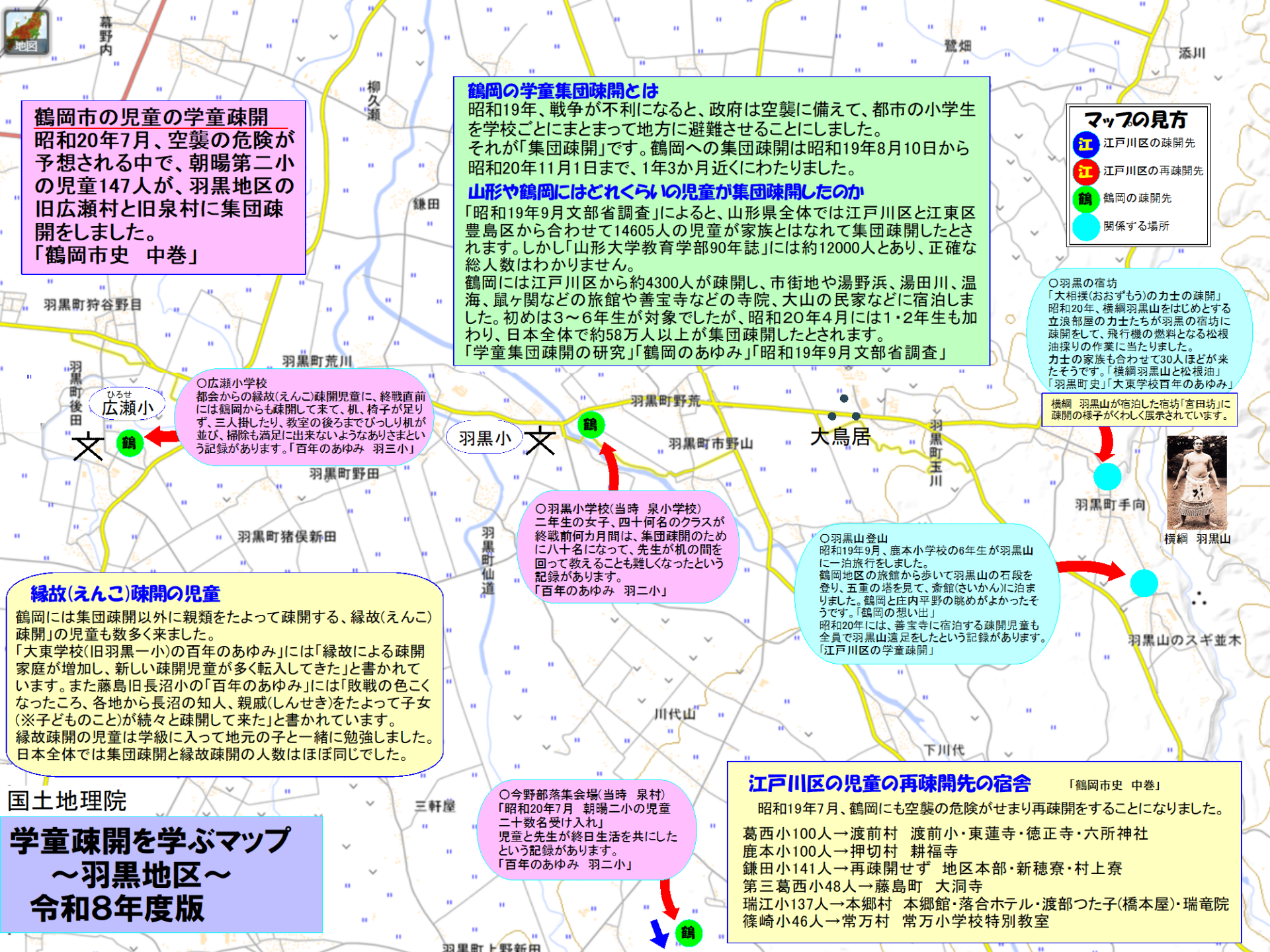
○湯田川温泉 御殿、鶯見屋、満寿屋、宮五館、旭屋、大三軒、七内たみや、田の湯元、滝ノ湯、穂積屋、大黒屋、五十嵐屋、富士屋、石倉屋、可屋、常盤屋の17旅館
「湯田川の歴史集」「江戸川区の学童疎開」
昭和20年2月6年生79名が卒業のために帰京し、2年生をふくむ95名の新たな疎開児童が来ました。一部の児童が赤湯温泉に移りました。「湯田川の歴史集」ある学童集団疎開記」

国土地理院

マップの見方

- 江戸川区の疎開先
- 江戸川区の再疎開先
- 鶴岡の疎開先
- 関係する場所

鶴岡市の児童の学童疎開
昭和20年7月、空襲の危険が迫る中で、朝陽三小の児童86人が、旧東郷村へ、四小78人が、旧上郷村へ、五小63人が、旧横山村へ、それぞれ集団疎開しました。「鶴岡市史 中巻」



鶴岡市の児童の学童疎開
 昭和20年7月、空襲の危険が予想される中で、朝暘第二小の児童147人が、羽黒地区の旧広瀬村と旧泉村に集団疎開をしました。
 「鶴岡市史 中巻」

鶴岡の学童集団疎開とは
 昭和19年、戦争が不利になると、政府は空襲に備えて、都市の小学生を学校ごとにまとめて地方に避難させることにしました。それが「集団疎開」です。鶴岡への集団疎開は昭和19年8月10日から昭和20年11月1日まで、1年3か月近くにわたりました。
山形や鶴岡にはどれくらいの児童が集団疎開したのか
 「昭和19年9月文部省調査」によると、山形県全体では江戸川区と江東区豊島区から合わせて14605人の児童が家族とはなれて集団疎開したとされます。しかし「山形大学教育学部90年誌」には約12000人とあり、正確な総人数はわかりません。
 鶴岡には江戸川区から約4300人が疎開し、市街地や湯野浜、湯田川、温海、鼠ヶ関などの旅館や善宝寺などの寺院、大山の民家などに宿泊しました。初めは3～6年生が対象でしたが、昭和20年4月には1・2年生も加わり、日本全体で約58万人以上が集団疎開したとされます。
 「学童集団疎開の研究」「鶴岡のあゆみ」「昭和19年9月文部省調査」

マップの見方

- 江戸川区の疎開先
- 江戸川区の再疎開先
- 鶴岡の疎開先
- 関係する場所

○広瀬小学校
 都会からの縁故(えんこ)疎開児童に、終戦直前には鶴岡からも疎開して来て、机、椅子が足りず、三人掛したり、教室の後ろまでびっぴり机が並び、掃除も満足に出来ないようありさという記録があります。「百年のあゆみ 羽三小」

○羽黒小学校(当時 泉小学校)
 二年生の女子、四十名のクラスが終戦前何カ月間は、集団疎開のために八十名になって、先生が机の間を回って教えることも難しくなったという記録があります。
 「百年のあゆみ 羽二小」

○羽黒の宿坊
 「大相撲(おおずもう)の力士の疎開」昭和20年、横綱羽黒山をはじめとする立浪部屋の力士たちが羽黒の宿坊に疎開をして、飛行機の燃料となる松根油採りの作業に当たりました。力士の家族も合わせて30人ほどが来たそうです。「横綱羽黒山と松根油」「羽黒町史」「大東学校百年のあゆみ」

横綱 羽黒山が宿泊した宿坊「宮田坊」に疎開の様子がくわしく展示されています。



横綱 羽黒山

○羽黒山登山
 昭和19年9月、鹿本小学校の6年生が羽黒山に一泊旅行をしました。鶴岡地区の旅館から歩いて羽黒山の石段を登り、五重の塔を見て、齋館(さいかん)に泊まりました。鶴岡と庄内平野の眺めがよかったそうです。「鶴岡の思い出」
 昭和20年には、善宝寺に宿泊する疎開児童も全員で羽黒山遠足をしたという記録があります。「江戸川区の学童疎開」

縁故(えんこ)疎開の児童
 鶴岡には集団疎開以外に親類をたよって疎開する、縁故(えんこ)疎開の児童も数多く来しました。「大東学校(旧羽黒一小)の百年のあゆみ」には「縁故による疎開家庭が増加し、新しい疎開児童が多く転入してきた」と書かれています。また藤島旧長沼小の「百年のあゆみ」には「敗戦の色こくなったころ、各地から長沼の知人、親戚(しんせき)をたよって子女(※子ども)のことが続々と疎開して来た」と書かれています。縁故疎開の児童は学級に入って地元の子と一緒に勉強しました。日本全体では集団疎開と縁故疎開の人数はほぼ同じでした。

○今野部落集会場(当時 泉村)
 「昭和20年7月 朝暘二小の児童二十数名受け入れ」児童と先生が終日生活を共にしたという記録があります。
 「百年のあゆみ 羽二小」

江戸川区の児童の再疎開先の宿舎 「鶴岡市史 中巻」
 昭和19年7月、鶴岡にも空襲の危険がせまり再疎開をすることになりました。
 葛西小100人→渡前村 渡前小・東蓮寺・徳正寺・六所神社
 鹿本小100人→押切村 耕福寺
 鎌田小141人→再疎開せず 地区本部・新穂寮・村上寮
 第三葛西小48人→藤島町 大洞寺
 瑞江小137人→本郷村 本郷館・落合ホテル・渡部つた子(橋本屋)・瑞竜院
 篠崎小46人→常万村 常万小学校特別教室

国土地理院
学童疎開を学ぶマップ
 ～羽黒地区～
 令和8年度版

江戸川区の疎開児童の宿舎 温海温泉

昭和19年8月に3～6年生1391名が疎開し、学校ごとに宿泊しました。
 ○温海温泉 朝日屋、東屋、温海ホテル、新玉屋、泉屋、越後屋、海老屋
 大清水、柏屋、亀屋、壽屋、小松屋、桜屋、待月、瀧の屋、瀧本屋
 竹岡屋、橋屋、葛屋、鶴住屋、富咲屋、萬国屋、三国屋の23旅館
 他に、角恵比を上げている資料もあります。「温海町史」
 「学童疎開 謝恩の記念碑の銘文」「江戸川区の学童疎開」
 昭和20年3月6年生が卒業のために帰京し、新たな疎開児童が来しました。

○空腹とのたたかい
 昭和20年に入ると食料の食料事情が悪化し、米の代わりに大豆やコウリヤンが配給され、旅館は食べ物の確保に努力しました。しかし腹いっぱい食べさせることは難しく、高学年の児童は先生に引率され、山菜とりいも掘り、野菜の取入れの手伝いなどをして食べ物の確保に協力しました。「温海町史」

マップの見方

- 江 江戸川区の疎開先
- 江 江戸川区の再疎開先
- 鶴 鶴岡の疎開先
- 青 関係する場所

江戸川区の学童疎開受入校
 昭和20年4月下旬から10月下旬まで、鼠ヶ関小学校の教室と職員室を提供したという記録があります。「蓬萊学校の百年」

○温海温泉の学童疎開
 昭和19年8月から、1391人の多くを迎え入れました。授業はほとんど旅館の座しきでした。元疎開児童たちの感謝の気持ちをこめた記念碑が建てられています。「江戸川区の学童疎開」



○温海岳(あつみだけ)
 温海温泉の疎開児童が登山したり、マキ拾いをしたりしました。「山形県温海町学童疎開の想い出」

○温海海水浴場
 温海温泉
 温海岳
 温海川
 ○温海川と温海海水浴場
 温海温泉の疎開児童が水泳をしました。

○鼠ヶ関海水浴場
 鼠ヶ関の疎開児童が海水浴をしてきれいな川(鼠ヶ関川)で塩気を落とし洗顔をしたという手記があります。「山形県温海町学童疎開の想い出」

○鼠ヶ関の学童疎開
 昭和20年4月から、三百数十名の疎開児童を迎えました。元疎開児童の感謝の記念碑が建てられています。「蓬萊学校の百年」



○本郷に再疎開
 昭和20年7月には、空襲の危険をさせて鶴岡地区から江戸川区の児童137人が、本郷に再疎開しました。「鶴岡市史 中巻」

鶴岡市の児童の学童疎開
 昭和20年7月、空襲の危険が予想される中で、朝陽第一小学校の児童167人が、櫛引地区の旧黒川村と旧山添村に集団疎開をしました。「鶴岡市史 中巻」

江戸川区の疎開児童の宿舎 鼠ヶ関地区

昭和20年4月から第二葛西小の1～6年生三百数十名が疎開し、5つの旅館に宿泊しました。
 一部は、鶴岡地区から移ってきた児童でした。
 ○丸イ(水族館)、丸長、牧野屋、港屋、村上屋の5旅館(朝日屋をあげる資料もあります)「温海町史」「蓬萊学校の百年」「江戸川区の学童疎開」
 「記念碑の銘文」「山形県温海町 学童疎開の想い出」

学童疎開を学ぶマップ ～温海・朝日・櫛引地区～ 令和8年度版

○鶴岡の児童の分散教育
 空襲に備えて昭和20年7月に朝陽一～五小児童の集団疎開が進められた時、鶴岡全体の小学校でも神社、寺院、集会所などに分かれて「分散教育」が行われることが決められ、実施されていきました。鼠ヶ関小学校では、寺院、分散場等で分散授業を実施したという記録があります。「山形新聞」「蓬萊学校の百年」

国土地理院